

政策目的	水産資源の持続的な利用・管理の推進	
政策目標	資源増養殖目標	29-12
事業実施主体	(一社) 根室管内さけ・ます増殖事業協会	
実施地区名	羅臼地区	
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度
	平成29年度	令和元年度
交付金額	12,042千円	
事業計画の内容	<p>根室管内のモセカルベツさけふ化場は、根室地区（北部地区）におけるさけ稚魚の生産施設として重要な役割を果たしている。しかし、当該施設は建設後37年を経過し、老朽化により屋根等の劣化が著しく、仔魚の管理に支障を来しているほか、施設内に種卵消毒場所が無いため、効率的に疾病対策を行えない状態にある。</p> <p>このため、養魚池棟の改築工事による施設の長寿命化を図り、安定した種苗生産を行うとともに、種卵消毒スペースの確保により疾病対策を強化することで、根室北部地区の秋さけ資源の維持安定に資する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養魚池棟：屋根及び外壁改築工事 ・消毒等作業室兼機械保管庫：69.4㎡(倉庫、玄関を改良) ・資材保管庫：42.7㎡(管理室を改築) <p>(添付資料1) 事業概要 (添付資料2) 事業計画 (添付資料3) 財産管理台帳</p>	
評価	成果目標	(仔魚生産数：6,570千尾/年間→19,710千尾/3年間)
	現状値	20,526千尾（令和3～5年合計）
	目標値	19,710千尾（令和3～5年合計）
	(1) 現状値の説明	<p>令和元年度末時点、平成29年度に施設を改築したモセカルベツふ化場においては、7,800千尾の養魚生産能力を有し、供用開始後は継続して事業が行われた。養魚池棟の改築工事を実施したことにより、継続して仔魚の生産が可能となり、平成29年～令和元年の仔魚生産尾数の合計は、19,697千尾となったが、当初計画の目標値は達成できなかった。</p> <p>令和2年に改善計画を策定し、継続して仔魚の生産に取り組んだことにより、令和3～5年の稚魚生産尾数の合計は、20,526千尾となり目標達成となった。</p>
	(2) 地域への経済効果	<p>令和5年においては、モセカルベツふ化場で7,120千尾の養魚が生産されているほか、施設の長寿命化により今後も継続して仔魚の生産が可能となったことから、当該地区におけるさけ資源造成に大きく貢献している。</p>
(3) 所見	<p>近年の記録的な親魚の来遊不振により、仔魚生産に必要な種卵を確保できなかったため、供用開始後の3ヶ年で当初計画の生産目標数を達成できなかったが、改善計画策定後、継続して事業が実施され安定した種苗生産が行われたことから、目標達成することができた。</p>	
(4) 評価機関への意見等	—	
今後の改善方向等に関する分析	整備した施設を今後も継続して使用していくことにより、安定的なさけ稚魚の生産を実施していく。	

水産業強化支援事業事後評価報告書

北海道水産林務部漁業管理課

政策目的		水産資源の持続的な利用・管理の推進	
政策目標		資源増養殖目標	1 - 1 5
事業実施主体		(一社)根室管内さけ・ます増殖事業協会	
実施地区名		野付地区	
実施期間及び目標年度		実施期間	目標年度
		令和元年	令和5年度
交付金額		14,904千円	
事業計画の内容		計根別さけますふ化場 養魚池棟建築 1,526.4㎡	
評価	成果目標	当該施設で管理する収容卵から浮上するまでの仔魚の浮上率	
	現状値	90.2%（令和5年度）	
	目標値	89.9%（令和5年度）	
	(1) 現状値の説明	令和元年に施設を整備した計根別さけますふ化場においては、供用開始後は継続して事業が行われ、令和5年度の浮上率は90.2%で目標を達成している。	
	(2) 地域への経済効果（ハード事業のみ）	これらの種苗生産能力の維持により今後も継続して健康な稚魚を放流できる体制が整っていることから、当該地区におけるサケ資源造成に大きく貢献しており、回帰年における漁家所得向上への寄与も期待される。	
(3) 所見	施設整備計画のとおり施設整備を行い、供用開始後は有効に利用され、計画達成となった。		
(4) 評価機関への意見等			
今後の改善方向等に関する分析		整備した施設を今後も継続して使用し、安定的なサケ稚魚の放流を実施していくことにより、回帰数の回復・増加が図られる。	

水産業強化支援事業事後評価報告書

北海道水産林務部漁業管理課

政策目的		水産資源の持続的な利用・管理の推進	
政策目標		資源増養殖目標	30-02
事業実施主体		(一社) 日高管内さけ・ます増殖事業協会	
実施地区名		日高地区	
実施期間及び目標年度		実施期間	目標年度
		平成30年	令和5年度
交付金額		63,720千円	
事業計画の内容		日高幌別さけますふ化場 給排水施設（河川取水施設）新設 1,746㎡	
評価	成果目標	河川回帰尾数の増加	
	現状値	1,785尾（令和5年度）	
	目標値	9,600尾（令和5年度）	
	(1) 現状値の説明	平成30年に施設を整備した日高幌別さけますふ化場においては、供用開始後は継続して事業が行われたが、近年の全国的な秋サケ来遊不振により令和5年度の河川回帰尾数は1,785尾となり、目標未達となった。	
	(2) 地域への経済効果（ハード事業のみ）	河川水を活用することで整備前より高水温で飼育することが可能になり、より大型の稚魚の生産が可能な体制が整ったことから、当該地区におけるサケ資源造成に大きく貢献し、回帰年における漁家所得向上も期待される。	
	(3) 所見	施設整備計画のとおり施設整備を行い、供用開始後は有効に利用されたが、計画未達となったことは近年の秋サケの全国的な来遊不振もあり、致し方ないと考ええる。	
(4) 評価機関への意見等			
今後の改善方向等に関する分析		整備した施設を今後も継続して使用し、安定的に健苗性の高いサケ稚魚の放流を実施していくことにより、河川回帰数の増加が図られる。	